

監査監督機関国際フォーラム (IFIAR) 事務局の 開設とその後の円滑な運営に向けて

日本初となるグローバルな金融関係国際機関の本部の開設



2017年3月

金融庁総務企画局IFIAR常設事務局設立準備本部IFIAR常設事務局設立準備室

目次

1. IFIAR(イフィアール)事務局が日本に置かれる意義 p1
2. IFIARの概要 p2
3. IFIAR設立の経緯と主な活動 p3
4. IFIAR事務局の新設と日本への誘致決定 p4
5. 事務局開設に向けた状況と今後の進展 p5

1. IFIAR事務局が日本に置かれる意義

- 監査監督機関国際フォーラム (IFIAR) は、監査法人の検査等を行う独立した監査監督当局により構成される国際機関であり、監査の質をグローバルに向上することを目的としている。
- 日本に本部である事務局を置く初のグローバルな金融関係国際機関となる。
(参考) IMF・世界銀行の本部は、米国。FSB・バーゼル銀行監督委員会はスイス。
証券監督者国際機構 (IOSCO) はスペイン。国際財務報告基準 (IFRS) 財団は英国。

◎日本の国際的地位の向上の観点等から見て極めて高い意義がある。

- 企業の開示への信頼を保つ「質の高い監査」は、資本市場の信頼性やコーポレートガバナンスの確保につながり、経済を安定的に成長させるため不可欠である。
- 経済のグローバル化に伴い国際的な監査に関する課題はより増大している。

◎グローバルな監査の品質の向上を目指すIFIARの活動は、日本はじめ世界の経済の健全な発展のためより重要になっている。

2. IFIARの概要



- 名称：監査監督機関国際フォーラム

IFIAR: International Forum of Independent Audit Regulators

- 設立年：2006年9月

- 加盟メンバー：52カ国・地域の監査監督当局

議長：Janine van Diggelen(オランダ金融市場庁) 任期2017年4月まで

副議長：Brian Hunt(カナダ公共会計責任委員会)

- 事務局機能：

現在、事務局はなく議長、副議長の当局が実質的にとりまとめを行っている。

- 組織構成：

重要案件は諮問委員会(日・米・英・独・仏・豪・星)で審議されている。

3. IFIAR設立の経緯と主な活動

➤ 設立の経緯

- 2000年代はじめの一連の不正会計事件を契機として監査品質を確保するため世界各国で監査業界から独立した監査監督機関が設立された。
- 2004年、日本では金融庁に公認会計士・監査審査会が設置された。
- 2006年に各国・地域の監査監督当局間における協力・連携の場としてIFIARが発足した。日本からは創立時より金融庁と公認会計士・監査審査会がメンバーとして参加。
- 2007年に創立本会合を東京で開催した。

➤ 主な活動

- 監査市場の環境に関する知識や独立の監査監督活動における実務的な経験を共有する。
- 規制上の活動における協力と整合性を向上する。
- 監査の品質に関心を有する他の国際機関との対話を主導する。

4. IFIAR事務局の新設と日本への誘致決定

- IFIARの課題の深化と加盟メンバーの増加
 - 監査法人の国際的な統合の進展など対処すべき課題が深化している。
 - 金融危機後、他の金融関係の国際機関との関係強化も新たな課題となっている。
 - 加盟国・地域も発足当初の18から現在の52へ急速に増加している。

- 国際機関としての機能強化のため事務局の新設を決定
 - IFIARは、当初の当局間の意見交換の場から国際機関としての実質的な活動を伴う組織へと急速に成長しつつある。
 - ⇒ 2014年にIFIARは、事務局の新設を決定。ホスト国の募集を開始。

- 日本の国際的プレゼンスを強化するため国をあげて誘致
 - 日本は、国際的なプレゼンスの強化、東京の金融センターとしての地位向上及び監査の品質の向上の重要性の観点等からホスト国に立候補した。
 - ⇒ 国をあげた誘致の結果、2016年4月に東京での事務局開設が決定された。事務局は2017年4月に開設の予定。

5. 事務局開設に向けた状況と今後の進展

- 2017年4月予定のIFIAR事務局の開設に向けた状況
 - IFIARは、事務局スタッフの国際的公募と選定を進めている。
 - 2017年2月に初代事務局長がCarl Rennerに内定した。4月に着任の予定。
 - 事務局オフィスは、東京大手町に開設される予定。

- 2017年4月初頭の事務局開所式と東京本会合の開催
 - 4月3日に事務局開所式をIFIARと共催し日本の貢献とIFIARとの協力強化を示す。
 - 4月4日～6日に全加盟国・地域が出席する本会合を東京で開催の予定。2007年の創立本会合以来、10年ぶりの日本での開催となる。

- 日本IFIARネットワーク
 - 日本で活動するステークホルダーによるネットワーク。2016年12月に設立された。
 - IFIAR事務局の活動支援と我が国における監査品質に関する意識向上を図る。

- 当庁としても一元的な金融監督当局としての知見も活用しつつ、今後のグローバルな監査の品質向上に向けて積極的に貢献していく。

(参考1)IFIARで議論されている最近のトピック

- 監査監督当局間の多国間情報交換枠組みの創設
 - 多国間覚書 MMOU: Multilateral Memorandum of Understanding
 - 2017年4月の東京本会合で調印の予定。
 - 監査監督当局間で国際的な情報交換を行う枠組みを構築することでグローバルな企業活動の監査についての監督をより適切に行うことを目指す。

- 監査の問題に関する根本原因(root cause)を捉えた監督の議論
 - 監査法人の監督にあたり、単に監査法人が一定の監査基準に従っていたかどうかを見るだけではなく、監査法人のビジネスモデルやガバナンスの問題といった本質的な原因を捉えた対処を行うべく議論が進められている。

- 監査の質の向上のためのステークホルダーとの対話の強化
 - 会計監査の質の向上に向け、監査法人のみならず上場企業の監査委員会や投資家等との意見交換を強化している。
 - 金融分野の他の国際機関(FSB・BCBS・IOSCO等)との連携も強化している。

(参考2)

日本再興戦略2016（抜粋）

2016年6月2日 閣議決定

我が国の国際的なプレゼンスを高め、また東京の国際金融センターとしての地位を向上させる観点から、今般東京に常設事務局を設置することが決定したIFIAR（監査監督機関国際フォーラム）について、来年4月の事務局開設及びその後の円滑な運営に向け、必要な支援を行う。

平成28事務年度 金融行政方針（抜粋）

2016年10月21日 公表

VI. 国際的な課題への対応

(2) IFIARを通じたグローバルな監査の品質向上に向けた積極的な貢献

日本の国際的地位と東京の金融センターとしての地位の向上及び監査の品質向上の重要性に鑑み、IFIAR 常設事務局を東京に誘致し、2016年4月に東京設置が決定された。IFIAR は日本に事務局を開設する初の金融関係国際機関であり、2017年4月に予定される事務局開設と東京での本会合開催、その後の円滑な運営に向け、金融庁として必要な支援を行っていく。加えて、我が国における IFIAR事務局の活動のサポート及び IFIAR要人等との意見交換を通じた、我が国における監査の品質に関する意識向上のため、国内の関係団体によるネットワークの構築を図る。また、一元的な金融監督当局としての知見も活用しつつ、金融庁として、今後のグローバルな監査の品質向上に向けて積極的に貢献していく。

誘致決定時の麻生副総理兼財務大臣兼内閣府特命担当大臣閣議後記者会見の概要

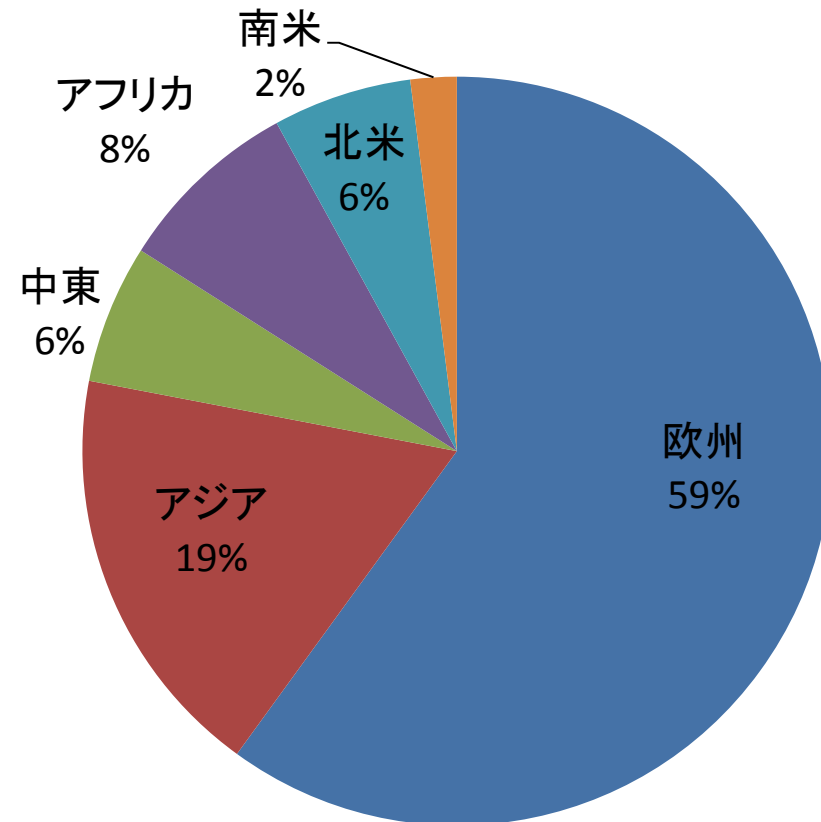
2016年4月22日(金)

最初にIFIARの話、いわゆる公認会計士とか監査法人などを監督する各国の地域等々で構成されております監査監督機関国際フォーラムをIFIARと言うのですが、この常設事務局を東京に設置するということがロンドンで行われた本会合で正式に決定されています。IFIARの常設事務局を東京に設置するということは、日本の国際的なこの業界におけるプレゼンスの強化や東京市場の国際金融センターとしての地位向上の観点からも極めて重要だと考えております。したがってこれまで金融庁及び公認会計士監査審査会を中心に外務省とも密接に連絡・連携の上、政府一丸となって誘致運動に取り組んできたところです。このたび東京にIFIARの常設事務局を誘致することができたというのは、これは政府の取組はもちろんですが、東京都や民間の団体等にもいろいろ支持をしていただいたことが大きな要因として挙げられると思っておりますので、関係者の皆様に対して深く御礼、感謝申し上げます。金融庁及び公認会計士監査審査会としては、IFIARの常設事務局が東京に設置された後も、IFIARが今後国際機関として発展・成長等々グローバルな監査の質を高めていくことができるように積極的に貢献をしていきたいと考えております。

(参考3) IFIAR加盟メンバー構成 52カ国・地域

2017年2月末時点

欧州 (31)	アジア (10)
アイルランド(IAASA)	インドネシア(FPSC)
アルバニア(POB)	韓国(FSC/FSS)
イギリス(FRC)	シンガポール(ACRA)
イタリア(CONSOB)	スリランカ(SLAASMB)
オーストリア(ASA)	タイ(SEC)
オランダ(AFM)	チャイニーズタイペイ(FSC)
キプロス(CyPAOB)	日本(CPAAOB/FSA)
ギリシャ(HAASOB)	マレーシア(AOB)
クロアチア(APOC)	オーストラリア(ASIC)
ジブラルタル(FSC)	ニュージーランド(FMA)
スイス(FAOA)	
スウェーデン(SBPA)	
スロバキア(AOA)	
スロベニア(APOA)	
スペイン(ICAC)	
チェコ(RVDA)	
デンマーク(DBA)	
ドイツ(AOB)	
ノルウェー(FSA)	
ハンガリー(APOA)	
フィンランド(AB3C)	
フランス(H3C)	
ブルガリア(CPOSA)	
ベルギー(CRME)	
ポーランド(AOC)	
ポルトガル(CMVM)	
リトアニア(AAA)	
リヒテンシュタイン(FMA)	
ルクセンブルグ(CSSF)	
ジャージー(JFSC)	
ロシア(MOF/FSFBO)	
	中東 (3)
	アブダビ(ADAA)
	ドバイ(DFSA)
	トルコ(POA/CMB)
	アフリカ (4)
	エジプト(EFSA)
	ボツワナ(BAOA)
	南アフリカ(IRBA)
	モーリシャス(FRC)
	北米 (3)
	アメリカ(PCAOB)
	カナダ(CPAB)
	ケイマン(AOA)
	南米 (1)
	ブラジル(CVM)



(参考4) 日本IFIARネットワーク Japan Network for IFIAR

背景

- 監査監督機関国際フォーラム(IFIAR イフィアール)は、我が国に事務局をおく初の金融関係国際機関となる。
- 我が国の国際的地位や東京の金融センターとしての地位の向上のため我が国産官学をあげた支援が必要。
- 誘致過程で支援表明したステークホルダーよりIFIARとの関係強化に強い期待。

⇒ 世界の主要な金融資本市場である我が国で活動するステークホルダーによるネットワークを築き、IFIARとの関係を強化し、IFIAR事務局の活動支援と我が国における監査品質に関する意識向上を図り、IFIARが目指すグローバルな監査品質の向上に貢献する。

ネットワークの会員・活動内容

○ 会員 次頁の各団体

○ 活動内容

- ① IFIAR事務局の国内におけるネットワーキングへの寄与
- ② 我が国における監査に関する議論をIFIAR事務局へインプット
- ③ IFIAR要人や金融庁担当者によるセミナーや寄稿等を通じIFIARにおける取組みを紹介

日本IFIARネットワーク会員

【会計監査税務】

- 日本監査研究学会
- 日本監査役協会
- 日本公認会計士協会
- 日本税理士会連合会
- 日本内部監査協会

【経済界】

経済同友会

- 日本経済団体連合会

【金融資本市場】

金融先物取引業協会

国際銀行協会(IBA)

信託協会

生命保険協会

- 全国銀行協会

第二種金融商品取引業協会

投資信託協会

日本証券アナリスト協会

- 日本証券業協会

日本損害保険協会

日本投資顧問業協会

- 日本取引所グループ

- 日本IR協議会

【その他】

日本弁護士連合会

【オブザーバー】

東京都

(注)各分類内で50音順

2017年2月末時点 計21会員 22団体

○印は、ネットワークの行事を企画する企画委員会
に所属する会員。計9会員。